

ゆるぎやま  
動山

△604 3

読図をテーマに積雪期の低山へ単  
独登山。色々な要因の積み重ねで冷  
静さを失い道迷い。最終的にはヘリ  
で救助された。

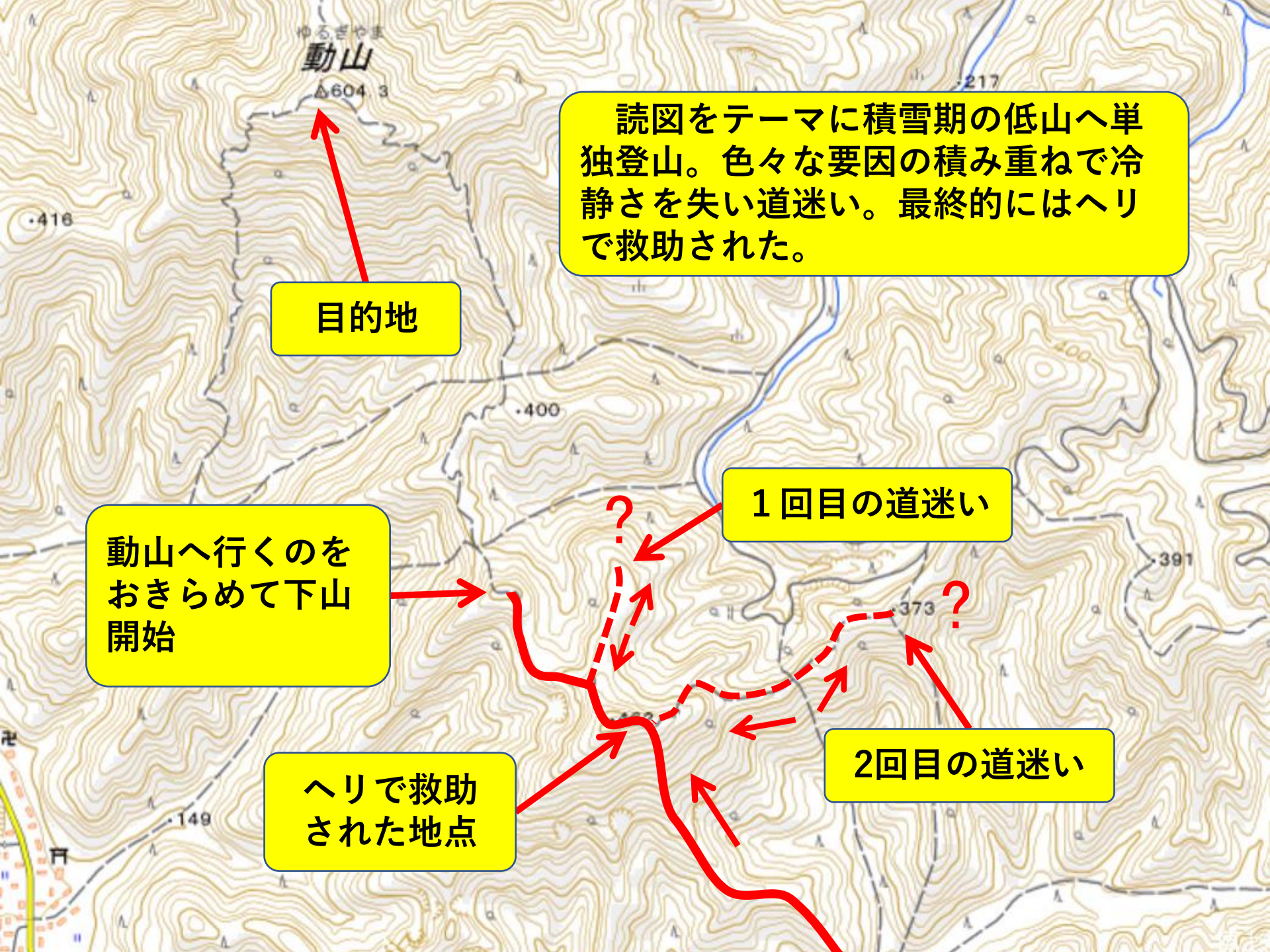
目的地

動山へ行くのを  
おきらめて下山  
開始

1回目の道迷い

ヘリで救助  
された地点

2回目の道迷い



①予定より1時間位寝坊。②運転を急ぎ、登山口を見逃して未除雪道路に突っ込み脱出に1時間かかり、体力と水分消耗。③地図を車に積んでいたが、雪かきでばたばたして動山の地図を持ち出すのを忘れる。④登山口でGPSをオンなのに入れ忘れていた。⑤ポイント地点でGPS登録など一切していない。⑥登りで尾根を1つ間違えた時点でも落ち着かずに早く登ろうとした。⑦ここでGPS入れたけど手遅れ。天候は遅くなるほど悪化予報だったので、ワカン装着と水分補給以外はほぼ休憩無しでラッセルし、想定外に体力消耗。⑧病院の検査で分かった体調不良（熱があって、白血球の数値があがっていた）（HP参照）

低山といえども2月の石川県は雪深いのだろう。今回のルートはヤマレコの足跡を確認すると歩く人が少ないマイナールート。また、GPSを持っていても電源が入っていないのであれば、持っていないのも一緒である。すべての要因が負のスパイラルに陥り、冷静さを失くし、ヘリコプターで救助要請する結果となった。

①単独、②マイナールート、③積雪期。これだけでも慎重な行動と読図力が無いといけませんが、朝の出発も遅く、途中のアクシデント、加えて体調不調である。十分すぎる遭難の要因を備えている。